

継続事業評価シート(対象:H28年度実施事務事業)

H29年度評価

事務事業名	博物館運営事業					事務事業コード	02801
部名	生涯学習部	課名	文化財課	係名	博物館	部課コード	120500

1. 事業概要

総合計画コード	3241	3413		
事業年度	H 8 年度 ~ H 年度	事業類型	<input checked="" type="radio"/> ソフト事業 <input type="radio"/> ハード事業	
法令等の義務付け	<input checked="" type="radio"/> 法令等(市条例・要綱等を除く)で義務付けられている事業 <input type="radio"/> 義務と任意の両方を含んでいる事業 <input type="radio"/> 任意(市条例・要綱等を含む)の自治事務		<根拠法令等(法律、条例、要綱など)> 博物館法 朝霞市博物館条例	
めざす目的成果	郷土の歴史を語る様々な資料を調査・収集・保存し、展示や教育普及事業において活用を図ることで、地域の歴史や文化への理解と認識を深め、生涯学習の場として、いつでも誰もが学べる学習機会が市民に提供されている。			
事業内容	展示:常設展示、企画展示、テーマ展示、ギャラリー展示 教育普及:聴講型及び体験型講座、博学連携事業(小学校6・3・1年生対応、博物館利用事業資料集刊行等)、博物館学芸員実習受入れ 資料調査:古文書調査、収蔵資料調査、自然資料調査、歴史的保存文書調査、研究紀要刊行(隔年)、調査報告書刊行(隔年)。 資料保存:特別収蔵庫及び一般収蔵庫密閉くん蒸、保存環境調査、資料修復、資料購入、図書購入。 博物館運営:博物館協議会、要覧刊行(隔年)、公用車管理、複写機ほか各種機器借上、施設設備管理、博物館関係団体加入。			
事業手法	<input type="checkbox"/> 市の完全な直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託等(請負、負担金、交付金等を含む) <input type="checkbox"/> 市民等との協働 <input type="checkbox"/> 補助金交付 学芸員をはじめ職員の調査研究、企画・運営により、各種事業を実施する。講座においては当館学芸員のほか専門的知識を持つ講師にお願いし、博学連携事業は、博物館利用検討委員会や教育指導課と検討しながら実施する。			

2. 実施結果

H28年度の事業の実施内容		展示:常設展示、第31回企画展「小さな銅鐸を追って」、テーマ展示「つくり 自然のコレクション2」「開館20周年記念事業 あさか・しき・いざ・わこう4市合同 丸沼芸術の森コレクション展」「朝霞市県展作品展」、ギャラリー展示「あさかの古墳」「みんなあーちすと」収蔵資料刀剣 研磨修復報告、資料紹介展示「独楽」「学芸員実習生展示」、企画展示「ワタから糸へ」 教育普及:歴史講座(全5回)、古文書講座(全6回)、博物館体験教室(全5回)、夏休み体験教室(全5回) 博学連携事業:小学校6・3・1年生の授業を実施。学芸員実習受入れ。 資料調査:古文書、収蔵資料、自然資料の調査、歴史的保存文書調査を当館学芸員・調査員・調査補助員により実施。調査報告書(隔年)を刊行。図書購入実施。 資料保存:特別収蔵庫及び一般収蔵庫の密閉くん蒸(6月)及び保存環境調査実施。資料修復、資料購入実施。 博物館運営:博物館協議会2回開催。公用車、複写機ほか各種機器借上、施設設備の適正な維持管理。埼玉県博物館連絡協議会・日本博物館協会に加入し、学芸員の専門研修参加や他館との情報交換を実施。				
		単位:千円	H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算見込	
投入コスト	a 事業費[イ]~[ホ]		20,726	20,022	22,422	
	財源内訳	[イ]国庫支出金				
		[ロ]県支出金				
		[ハ]地方債				
		[ニ]その他				
[ホ]一般財源		20,726	20,022	22,422		
b 人件費		27,114	21,251	21,618		
総コスト(a 事業費 + b 人件費)		47,840	41,273	44,040		
投入労働量	常勤職員等(人工)		3.70 人	2.90 人	2.95 人	
	一般職非常勤職員等(時間)		3,872 時間	4,133 時間	4,600 時間	
a 事業費(H28年度決算見込)の執行内訳	報酬	2,761千円	役員費	3,057千円		
	賃金	1,938千円	委託料	4,400千円		
	報償費	3,300千円	使用料及び賃借料	1,500千円		
	旅費	400千円	備品購入費	1,010千円		
	需用費	4,000千円	負担金、補助金及び交付金	56千円	合計22,422千円	
指標名		単位	H28目標・計画 (H28実績見込)	H29目標・計画 (H29実績見込)	H30目標・計画 (H30実績見込)	最終目標・計画 目標年度
活	① 開館日数	日	289	271	289	289
			(280)	(—)	(—)	H 32 年度
動	② 企画展示等開催回数	回	7	6	6	6
			(7)	(—)	(—)	H 32 年度
成	① 企画展示等開催期間中入館者数		38,900	38,000	38,100	38,300
			(40,700)	(—)	(—)	H 32 年度
果	②					
			()	(—)	(—)	H 年度

3. 事務事業の分析

必要性 (市が関与する必要性はあるか)	判定	<input checked="" type="radio"/> A 必要性が高い	<input type="radio"/> B 必要性がある程度認められる	<input type="radio"/> C 必要性が低い
		<input type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される <input checked="" type="checkbox"/> サービスの拡大や充実を求める意見・要望が増えている <input checked="" type="checkbox"/> 法令等により、市に実施が義務付けられている <input type="checkbox"/> 市が実施しないと、市民生活に深刻な影響が生じる <input type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で難しい <input type="checkbox"/> その他 <説明> 博物館は、資料収集・保存、調査研究、展示、教育普及といった事業を実施している。博学連携事業においては子どもたちの体験学習に実物資料に触れることで効果的に実施している。また市民の生涯学習の場として博物館が果たす役割は重要である。		
達成度 (事業の目標は達成したか)	判定	<input type="radio"/> A 目標よりも大きな成果が得られた	<input checked="" type="radio"/> B 概ね目標の成果が得られた	<input type="radio"/> C 目標とする成果が得られなかった
		<input type="checkbox"/> 活動指標の目標を達成した <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標を達成した <input checked="" type="checkbox"/> 指標に表れない事項について目標を達成した <input type="checkbox"/> その他 <説明: 指標の達成状況及び改善等に関する達成状況を記入> 企画展等の展示や聴講型・体験型の講座を実施することで、学習機会の提供に努めた。マスコミやツイッターなどで事業情報の発信を行い、企画展示等開催期間中入館者数は、テーマ展示「四市合同丸沼芸術の森コレクション展」が盛況であったこともあり、目標数値を大きく上回ることができた。博学連携事業では小学3年生対象及び小学1年生対象のプログラムを全校で実施できた。資料調査の成果として、調査報告書を刊行した。実施事業を総括した要覧第10号を作成し、ホームページに公開した。		
留意点 (政策の立案・推進に際して)	<説明: 留意した点について記入>			
	思いやり: 誰もが学べる学習機を提供するとともに、情報提供の充実に心がけた。 参加と協働: 学校を中心に博物館資料を活用してもらえた。 経営的な視点: 展示や教育普及事業を通じて、地域の歴史や文化への理解と認識を深めるよう各種事業を実施した。			
見直し余地 (事業の内容、実施手法等は適切か)	判定	<input type="radio"/> I 見直す余地がない	<input checked="" type="radio"/> II 見直す余地がある程度認められる	<input type="radio"/> III 見直す余地がある
		<input type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある <input type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 受益者負担のあり方について見直す余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト圧縮の余地がある <input type="checkbox"/> その他 <説明> 展示事業・教育普及事業の企画等の充実を図っていく。博物館資料の展示への活用を含め、有効活用を進めていく。なかでも膨大な点数の古文書の読み解きを進めていくための体制を講じる必要がある。また市民の博物館利用を促すために広報活動の充実を図る。		

4. 今後の展開方針[課としての判断]

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> A 市で継続実施 <input type="radio"/> B 休止・廃止 (実施時期 : <input type="checkbox"/> H28年度から <input type="checkbox"/> H29年度から <input type="checkbox"/> H30年度から) <input type="radio"/> C 民営化 (実施時期 : <input type="checkbox"/> H28年度から <input type="checkbox"/> H29年度から <input type="checkbox"/> H30年度から) <input type="radio"/> D 国・県に移譲 (実施時期 : <input type="checkbox"/> H28年度から <input type="checkbox"/> H29年度から <input type="checkbox"/> H30年度から) <input type="radio"/> E 終了 (実施時期 : <input type="checkbox"/> H28年度まで <input type="checkbox"/> H29年度まで <input type="checkbox"/> H30年度まで)			
	成果の方向性	<input type="radio"/> A 拡大	<input checked="" type="radio"/> B 現状のまま	<input type="radio"/> C 縮小
投入資源の方向性	事業費	<input type="radio"/> A 拡大	<input checked="" type="radio"/> B 現状のまま	<input type="radio"/> C 縮小
	労働費	<input type="radio"/> A 拡大	<input checked="" type="radio"/> B 現状のまま	<input type="radio"/> C 縮小
今後の取組方針	見直しの方向性	<input type="radio"/> A 見直して継続 <input checked="" type="radio"/> B 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 民間委託・PFI・指定管理者等を今後導入・拡大 (実施時期 : H 年度) <input type="checkbox"/> 業務プロセス改善 (実施時期 : H 年度) <input type="checkbox"/> 対象・水準等の見直し (実施時期 : H 年度) <input type="checkbox"/> 受益者負担の見直し (実施時期 : H 年度) <input type="checkbox"/> 臨時・再任用職員等の活用を今後導入・拡大 (実施時期 : H 年度) <input type="checkbox"/> 市民等との協働を今後導入・拡大 (実施時期 : H 年度) <input type="checkbox"/> その他 (実施時期 : H 年度)		
	方針 (次年度の改善内容等を含めた具体的な事業の展開方針)	・展示: 市制施行50周年記念事業を実施することで博物館の周知を図っていく。 ・教育普及: 博学連携事業では、教育指導課と連携を図りながら、充実した学習内容の提供に努める。 ・資料調査: 古文書の読み解きを進めていく。		